

平成 28 年 8 月 17 日

# 南の風リオ五輪号

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

リオオリンピック決勝トーナメントアメリカ戦です。

今、観戦しながらこの原稿を書いています。

アメリカについてです。特に、ずば抜けていたことを書きます。

まずシュート力です。当然どのシュートも片手です。素晴らしいのは確率の高さです。ノーマークの 2P は 80% の確率です。そして身体の軸がぶれずに打っていることです。また、ボールの受け方（もらい方）がしっかりしていることです。さらにダブルチームがきても、すぐに周りを見てパスを探すのではなく、ステップやフェイダウエーでリングを狙っていました。この強い気持ちでアメリカの真骨頂でした。（リングに向かう気持ちの強さは、群を抜いています）

二つ目はリバウンドです。目を見張ったのはポジション取りです。日本のスクリーンアウトに対して重心を下げて、シュートの軌跡を見て落下点を予測してボールを奪取していました。シュートもそうですが、こうした基本的なことをやり続けることがアメリカの強さの秘密です。

アメリカチームの平均身長は約 188cm です。2m 以上の選手もいます。しかし決して高さだけではありません。基本に忠実にプレイをします。そしてタイムシェアで出てくる選手の実力にも差がないこともアメリカの強さです。身長も、プレイの精度にも差がありません。

ここで日本とアメリカのシュート確率を比べて見ます。

	3P・A	3P・M	3P・AVE	2P・A	2P・M	2P・AVE
U S A	18本	11本	61.1%	54本	36本	66.7%
日 本	21本	8本	38.1%	50本	16本	32.0%

以上です。

説明するまでもありません。シュートの決定率が物語っています。

しかし、結果はアメリカに負けてしまいましたが、前半女王と互角に戦い、最後の 1 秒まで全力をつくした日本の選手の頑張り、日本のたくさんのファンの方と、バスケットボールの関係者は素晴らしい感動と、チャレンジする勇気の大切さをいただいたのではないのでしょうか。。。。。

さてここで、アカツキファイブのアメリカ戦での戦い方を振り返ります。

オフェンスです。1P の入りからオンボールスクリーンのピック&ダイブからの合わせ（逆サイドの選手がリフトして合わせる）と、ユーザーのドリブルキックアウトからの 3P がよく決まりました。

また本川選手、吉田選手のドライブからショットや、ショットに行くを見せてキックアウトするプレイも見事でした。惜しむらくは、合わせた後のショットの確率（2P）がよくなかったことと、リバウンドがもう少し取れていれば、ということがありました。この辺は相手のディフェンス（高さと手）との絡みもあると思います。

気になった点は、パターンオフェンスに固執し過ぎた時に、全体の足が止まったことです。ボールマンが突っ立ったままパスを探す状況が、特に後半見られるになったのは残念でした。次号に続きます